



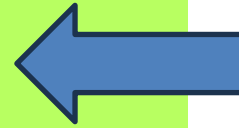
環境研究総合推進費
Environment Research and Technology Development Fund

環境研究総合推進費の応募に向けて

環境研究総合推進費
プログラムオフィサー 横田 達也

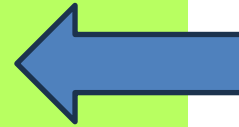
環境研究総合推進費の応募には、2つの視点が重要です。

① 研究プロジェクトの設計



応募までに検討すべきこと

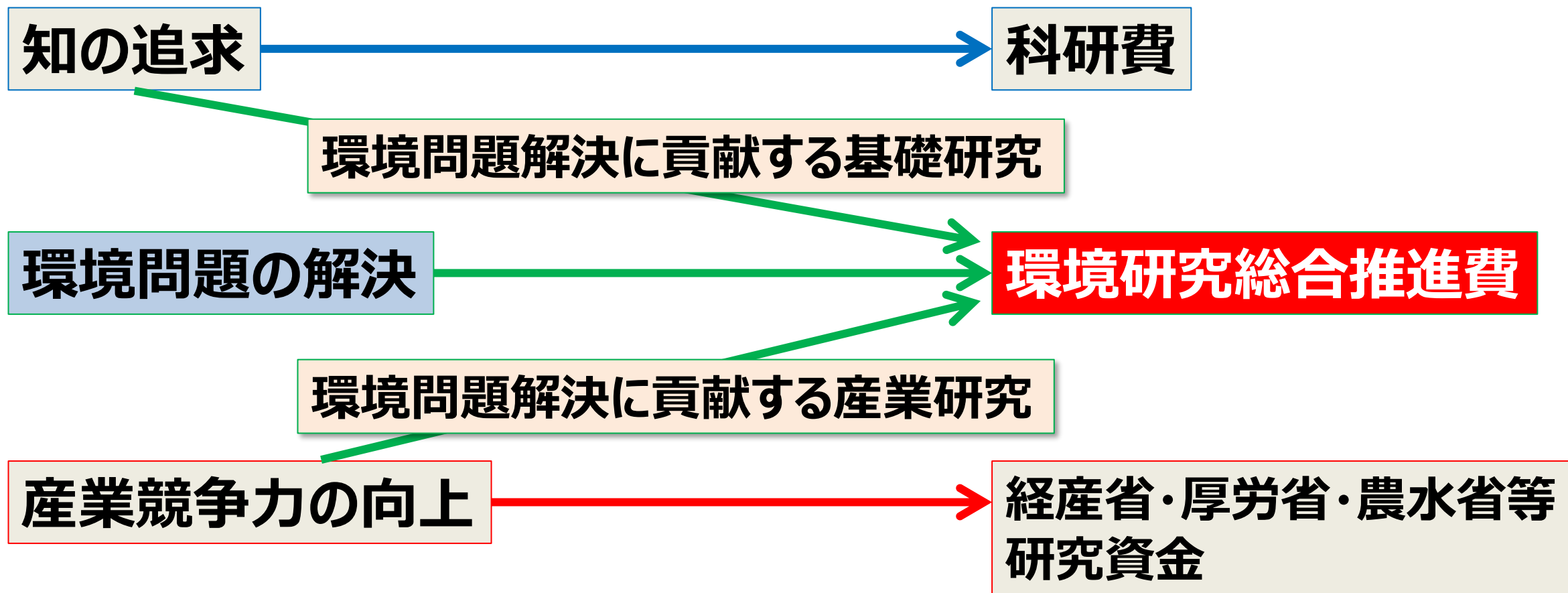
② 研究開発マネジメント



課題採択後のことを
応募までに想定し準備する

※本日は「研究プロジェクトの設計」を中心にご説明いたします。

何を研究すべきか



環境問題とはなにか

公募書類には二つの種類の環境問題（重点課題と行政ニーズ）が示されています

今後5年間程度で重点的に取り組むべき環境分野の研究・技術開発

1. 領域及び取り組むべき課題の設定に関する基本的な考え方
2. **重点課題①～⑬・・・このどれかに含まれることが必須です**

(1) 統合領域	5	重点課題
(2) 気候変動領域	3	重点課題
(3) 資源循環領域	3	重点課題
(4) 自然共生領域	2	重点課題
(5) 安全確保領域	3	重点課題

中長期的な課題

全問題を包括、将来を見越している

5年程度毎に改訂（R9年度はR6年度改訂版で募集）

参照 [環境研究・環境技術開発の推進戦略](#)

行政要請研究テーマ（行政ニーズ） 令和8年度新規課題公募において特に提案を求める
（**必須ではない**）

(1) 統合領域	10	テーマ
(2) 気候変動領域	5	テーマ
(3) 資源循環領域	4	テーマ
(4) 自然共生領域	12	テーマ
(5) 安全確保領域	20	テーマ

すぐ答えが欲しい課題
今一番困っている問題
毎年度改訂される

参考資料：令和8年度新規課題公募要領 別添資料1:「令和8年度新規課題に対する行政要請研究テーマ（行政ニーズ）について」
（令和9年度公募要領は9月頃に公表される予定）

領域ごとのキーワード

気候変動領域

エネルギー効率

ネットゼロ1.5℃目標 コベネフィット

都市脱炭素化 極端現象 観測監視

省エネルギー カーボンニュートラル

脱炭素 交通システム IPCC ロスアンドダメージ

エネルギーマネジメント

再生可能エネルギー

ダウンスケーリング 影響評価 気候変動適応

フロン削減 COP28

JCM

衛星観測

気候安全保障

ゼロカーボンシティ

イベントアトリビュション

熱中症対策 レジリエンス

気候変動緩和

CCUS

GOSAT

気候予測

温室効果ガス

自然共生領域

生態系ネットワーク

藻場 里地 ネイチャーポジティブ

絶滅危惧種 生物多様性 鳥獣管理

EcoDRR 里山 干潟 里海 TNFD 自然資本

環境DNA 自然共生 土壌炭素

コミュニティ再生 グリーンインフラ 生態系サービス

GBF 30by30

生物多様性国家戦略

ESG投資

水源涵養

外来種対策 リモートセンシング EbA

IPBES 都市自然再生 合意形成

遺伝資源 NbS

統合領域

環境教育 国際協調 災害復興

ワークスタイル変革 リスクコミュニケーション

ライフスタイル変革 プラネタリーヘルス

ウェルビーイング

地域循環共生圏

高い生活の質

環境経済社会統合

環境ルール形成

ワンヘルス

トレードオフ

合意形成

ネットゼロ

ローカルSDGs

シナジー

ESD

市民参画

グローバルサプライチェーン

社会実装

フェーズフリー

環境価値

SDGs

ネイチャーポジティブ

サステナブルファイナンス

環境再生

循環経済

国際標準化

放射性物質

総合知

資源循環領域

災害廃棄物 トレーサビリティ

ICT 資源循環 廃棄物発電

社会実装 バイオマス

ASEAN 再資源化

需要予測

再生プラスチック

ライフサイクル

リデュース

バイオプラスチック

リユース

循環経済

CCUS

不法投棄対策

資源効率

地域循環共生圏

国際資源循環

循環インフラ

物質フロー

有害廃棄物

AI

3R

2R

リサイクル

サーキュラーエコノミー

ロボティクス

サプライチェーン

安全確保領域

水道管理

石綿

干潟

環境監視

光化学オキシダント PM2.5

越境汚染

水質管理

複合曝露

流域管理

貧酸素水塊

リスク管理

富栄養化

藻場

土壌管理

PFAS

花粉症

閉鎖性水域

健康影響

生態毒性

POPs

水銀

健全な水循環

振動

大気汚染

国際条約

リスク評価

化学物質管理

迅速モニタリング

有害物質

騒音

AI

環境研究・環境技術開発の推進戦略

からのワードマイニング結果より

推進費には二つのタイプの研究がある

→ 二つの道筋を通じた環境政策への貢献

(1) 環境政策に必要な科学的知見の集積

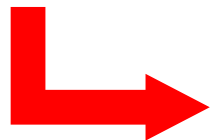
- ・環境政策の根拠となる科学的知見（発見、プロセス研究、影響評価）等
環境問題対応型研究（一般課題）や革新型研究（若手枠）の多くが該当

(2) 環境問題を解決するための技術開発

環境問題対応型研究（技術実証型）、次世代事業などの社会実装を念頭においた研究開発が該当

研究開発の社会実装のためには(1)、(2)の複合も重要

特に社会的側面（経済面、法律面など）の研究が必要な部分では、人文・社会科学分野までを含めた幅広い研究提案が必要、多様な分野の知見を総合的に活用



「環境・経済・社会の課題を統合的に解決」

どのような体制にすべきか

—

革新型研究開発（若手枠） 一人または少人数で核となる技術を開発・解決する

将来、分野をリードする研究（者）を育てる

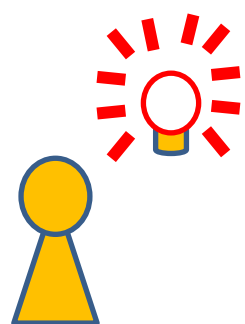
環境問題対応型研究（ミディアムファンディング） 中間くらい

環境問題対応型研究 複数の研究機関に属する研究者が複数のサブテーマ
研究開発、研究展開、そして社会実装まで

現在の日本最高のチームを作るコンソーシアム型研究

規模増大
連続申請

革新型研究開発（若手枠）



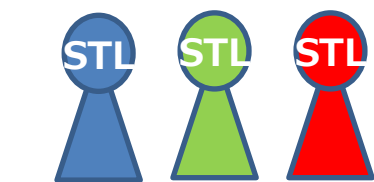
A技術を開発すれば、〇〇が解決するのではないか

夢を語る（論理的に）
研究能力を示す

研究シーズからの**ボトムアップ**、想定される**アウトカム**（研究目的）

一人又は少人数の研究体制

環境問題対応型研究



STL：サブテーマリーダー

〇〇を解決するには
A技術、B技術の開発、社会実装にはC技術が必須

サブ1、サブ2、サブ3にそれぞれ最高の研究者を配置して研究し、統合して〇〇を解決します

アウトカム（研究目的）からの**トップダウン**で作られる体制・計画

コンソーシアム型研究体制

ミディウムファンディングは両者の中間

全課題の目標達成を束ねる研究代表者の
リーダーシップが重要

革新型研究開発（若手枠）に求められることは 新規性・独創性・革新性

＜革新型研究開発（若手枠）の特徴＞

- ▶ 重点課題の環境問題の解決に資する研究
- ▶ **新規性・独創性・革新性**に重点を置いた、若手研究者
- ▶ 研究期間 3 年以内、**年間研究費 6 0 0 万円**以内と **3 0 0 万円**以内の二つの申請枠
- ▶ 平成30年（2018年）度より、**一定の予算枠を設けて重点的に採択。**
- ▶ 書面審査のみで採択決定⇒**申請書でのアピールが重要**

**ハイリスク・ハイリターンの研究こそ
若手枠に応募してください！**

**人文・社会学的な研究など、多様な
研究分野の応募も求めます！**



ご自身の研究が環境問題を解決するのに役立つことをアピール！

環境問題対応型研究 (コンソーシアム型研究体制)

研究体制例

日本最高のチームを作る

サブテーマ1

研究代表者A

(大学・研究所・民間企業)

研究分担者B

(大学・研究所・民間企業)

サブテーマ2

サブテーマリーダーC
(大学)

研究分担者D
(大学・研究所・民間企業)

サブテーマ3

サブテーマリーダーE
(民間企業)

研究分担者F
(大学・研究所・民間企業)

サブテーマ4

サブテーマリーダーG
(研究所)

研究分担者H
(大学・研究所・民間企業)

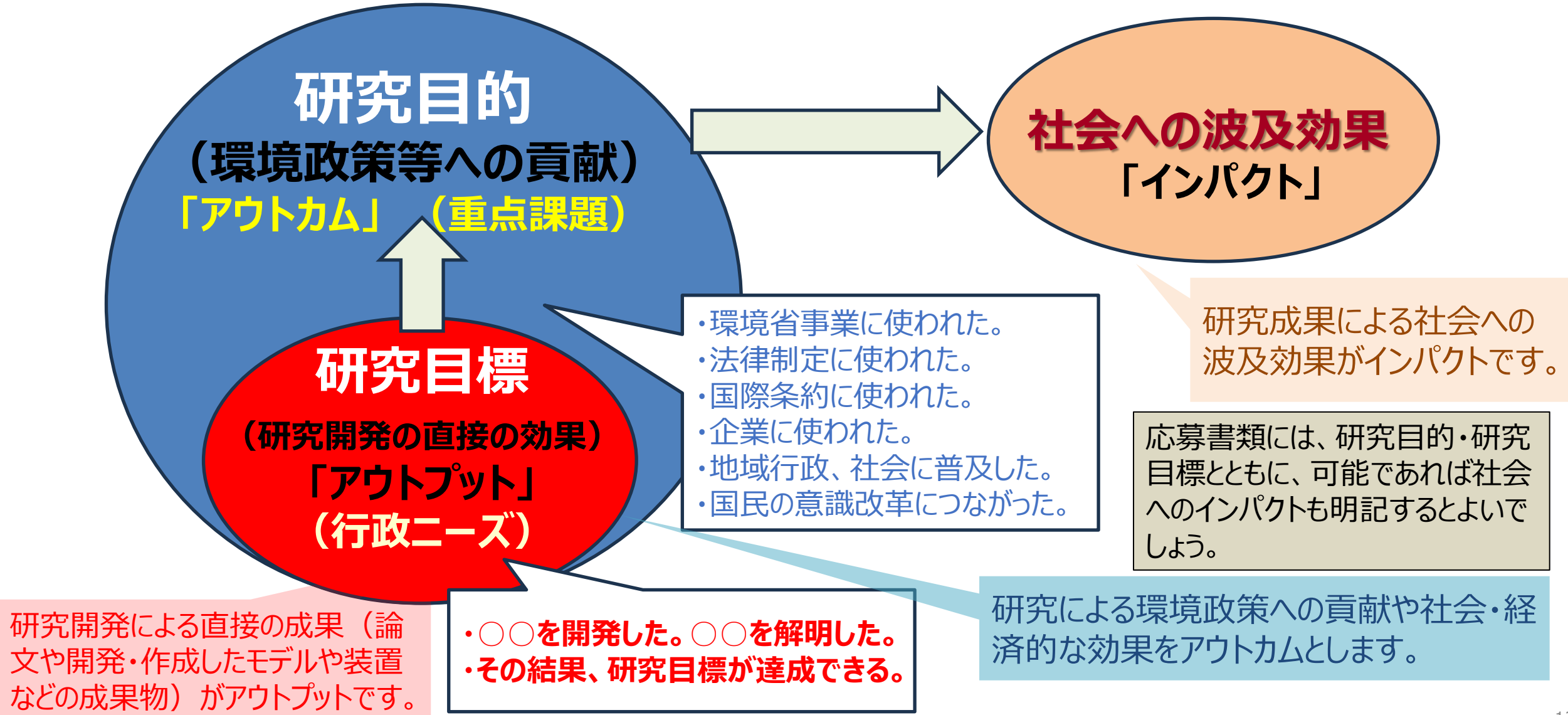
「若手枠」に加え、「ミディアムファンディング枠」の活用

- ・ミディアムファンディングとは、若手枠（年間600万円以内）と環境問題対応型課題（年間4000万円以内）の**中間として位置付けられる**。研究費は年間2000万円以内で、研究の**ステップアップ**である中間的申請枠として活用しやすい。
- ・大型の組織でなく、少ないサブテーマ数で、**効率的、集中的**に環境問題対応型研究の目標達成ができる可能性がある。
- ・限られている全体予算の中で**数多くの**研究課題を採択する可能性が増大。
- ・自然科学分野だけでなく人文社会科学分野との連携あるいは人文社会科学分野単独も含めた幅広い研究分野からの応募を期待している。

応募にあたって留意していただきたいこと

- (1) 目的達成のための具体的な目標の設定**
- (2) 「委託費」であること**
- (3) 環境政策への貢献における関係をもう一度チェック**

「アウトプット」「アウトカム」「インパクト」の関係



背景、目的、目標の関係

背景：

- ・国際条約等
- ・法律
- ・該当課題の研究開発状況（未解明部分抽出）
- ・社会情勢 熱中症 ヒグマ PFAS汚染

目的：環境政策（重点課題など）に
〇〇という問題があり、それを解決する

目標：目的達成のための第一段階として、
△△という手法で
中核技術を3年で開発する。

目的への貢献をもたらすための**研究目標の立て方**
が重要となる。

サブテーマごとの研究目標が**どのような繋がり、全
体目標が達成されるのか**、明確に示す。

背景：

我が国には〇〇物質汚染がある。
〇〇物質汚染の汚染状況、ヒト健康影響、生態影響などの知
見が不足している。

目的： 〇〇物質の環境汚染状況を把握し、ヒト健康影響を明
らかにすることにより、効果的な汚染対策を立案に貢献する。

全体目標： 3年後にまでに〇〇物質の環境汚染状況を把握
する。
ヒト健康影響を明らかにする。

サブテーマ1 目標： 〇〇物質の分析手法を開発し、環境汚染
状況を明らかにする。

サブテーマ2 目標： 疫学研究から〇〇物質のヒト健康影響を
明らかにする。

サブテーマ3 目標： サブテーマ1 および2 の成果から、 〇〇物
質のヒト健康影響リスクを明らかにする。

リスクが明らかになることにより、〇〇物質の代替品が開発される。

インパクト

アウトカム

アウトプット

良くない目標の書き方

達成したかどうかかわからないと**達成度評価**できない

目標は行動の目標ではなく、**成果の目標**です。

○○について検討する。
○○に着手する。
○○を試みる。

→ ○○について検討し、**××を明らかにする。**

成果ではなく、計画を目標に書くのもダメです（計画は研究計画の部分に記載）

○○を調査する。
○○を解析する。
○○を収集する。

→ ○○について調査し、**××を明らかにする。**

(2) 委託費であること

申請書を基に研究計画書を作成し、契約します。
研究計画書に書かれてあることを研究していただくような委託契約です。

研究計画書は契約なので、許可なく勝手に変更することはできません。

特に研究目標を変更することはできません。
研究代表者、サブテーマリーダーの変更は基本的にできません。

所属の変更、役職（立場）の変更、やむを得ない理由による計画の変更は
手続きを踏めば可能です。

ライフイベントによる変更はもちろん可能です。

(3) 環境政策への貢献における関係をもう一度チェック

あなたの研究は重点課題のいずれかに該当していますか？

あなたの研究が採択されるとどんな良いことがあるのか、明確に語れますか？

納税者の視点で、費用対効果も考えてみましょう。

まずチェックして頂きたい情報源

環境再生保全機構（ERCA）ホームページ

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 公募情報> **公募要領・応募様式等（令和8年度）**

https://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/r08_koubo_2.html

【公募要領】

- ・環境研究総合推進費令和**8年度**新規課題公募要領
必要なことはほぼ全て書いてある！

【別添資料】

- ・（別添資料 1）令和8年度新規課題に対する
行政要請研究テーマ（行政ニーズ）について

次に、**環境研究・環境技術開発の推進戦略**

（<https://www.env.go.jp/policy/tech/kaihatsu.html>）

で、重点研究課題の確認を！

さらに、**研究課題データベース**

（https://www.erca.go.jp/suishinhi/seika/db/search.php?research_status=ing）で先行研究チェックを！

迷ったら、「**研究推進ハンドブック（事務処理説明書 研究推進編）（令和8年度）**」そして、**オンライン個別相談会**をご利用ください

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 契約情報> 研究者向け事務処理説明書・様式集（委託・補助共通）

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 公募情報> オンライン個別相談会（通年開催中）

ご清聴ありがとうございました

参考資料

**研究開発マネジメント
（応募課題の採択後は・・・）**

研究代表者のリーダーシップ

研究代表者のリーダーシップでトップダウンの研究計画、研究体制を作る

- ・環境政策への貢献の具体的な研究目的(アウトカム)
 - 課題全体の研究目標 (アウトプット)
 - 具体的な(サブテーマの)研究目標
 - 研究計画
 - 必要な「ヒト、モノ、カネ」
 - 研究体制、予算
 - サブテーマ間の連携・全体への統合が重要(実施にあたって)

注)一人で実施する革新型研究開発では研究目標の達成だけを考えてよい。
アウトカムはきちんと説明できれば良い。

アドバイザーの役割

アドバイザーは、当該分野や関連分野に見識があり、研究開発の全体像を俯瞰し、**広い視野から研究及び研究成果の環境政策への貢献等について適切に助言できる方**とします。原則2名から4名。

仲間内をアドバイザーにするのはもったいない！

- ・著名な先生
- ・アウトカムに関わる方（環境省職員は除く）

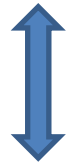
など、タイプの異なるアドバイザーを選ぶのもよいでしょう。

環境研究総合推進費の運営・実施におけるPOの役割

・ERCAは、推進費の基本方針の提示や研究成果の政策への反映を行う環境省、**研究内容・進捗管理の確認、研究部会における評価結果を反映するための助言等を行うプログラムオフィサー（PO）と連携。**

ERCA

業務委託



プログラムオフィサー
(PO)

POの主な役割・業務＋臨機応変

- ① 研究計画書の確認及び助言
- ② 研究管理の窓口
- ③ 研究の進捗状況把握
- ④ キックオフ(KO)会合・アドバイザリーボード(AD)会合等への出席
- ⑤ 革新型研究開発（若手枠）に係る研究管理及び支援
- ⑥ 環境政策貢献に向けた改善の助言及び技術の社会実装支援

研究代表者の
リーダーシップのサポート

研究課題

研究代表者
(テーマリーダー)

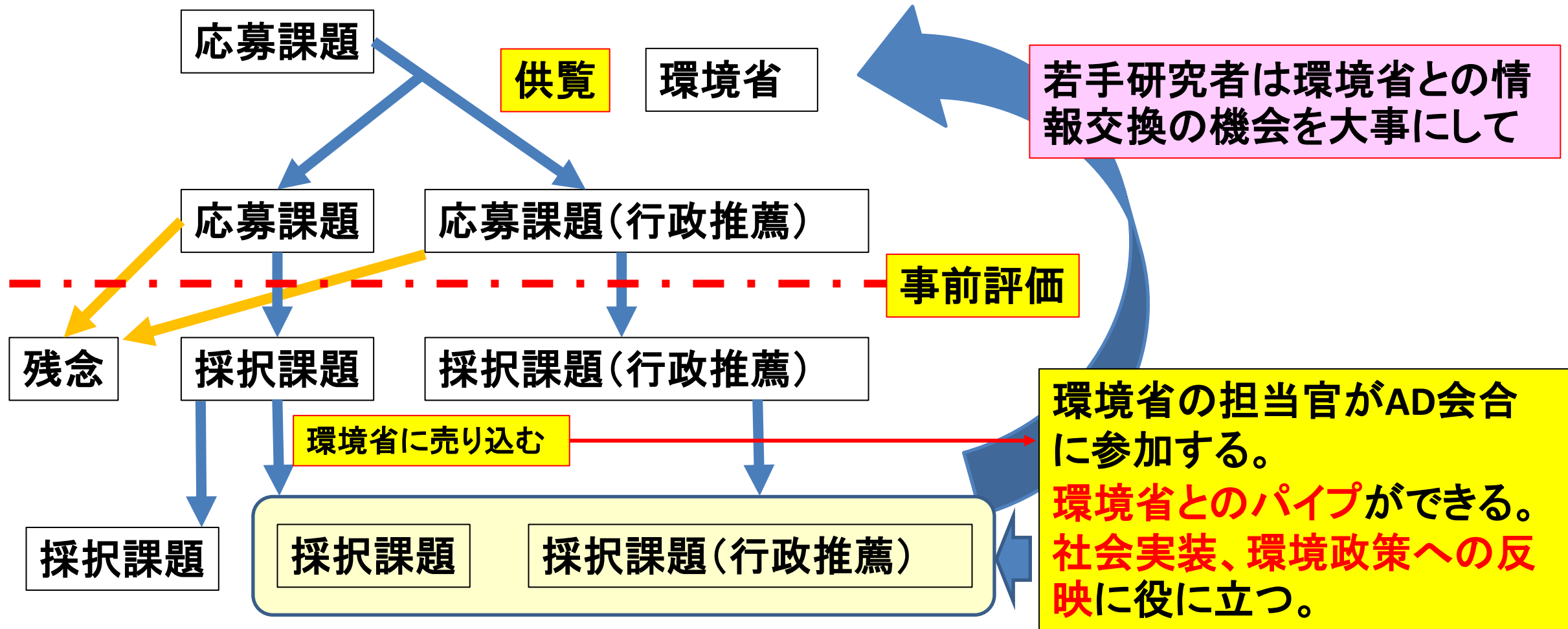
サブテーマリーダー
研究分担者

サブテーマリーダー
研究分担者

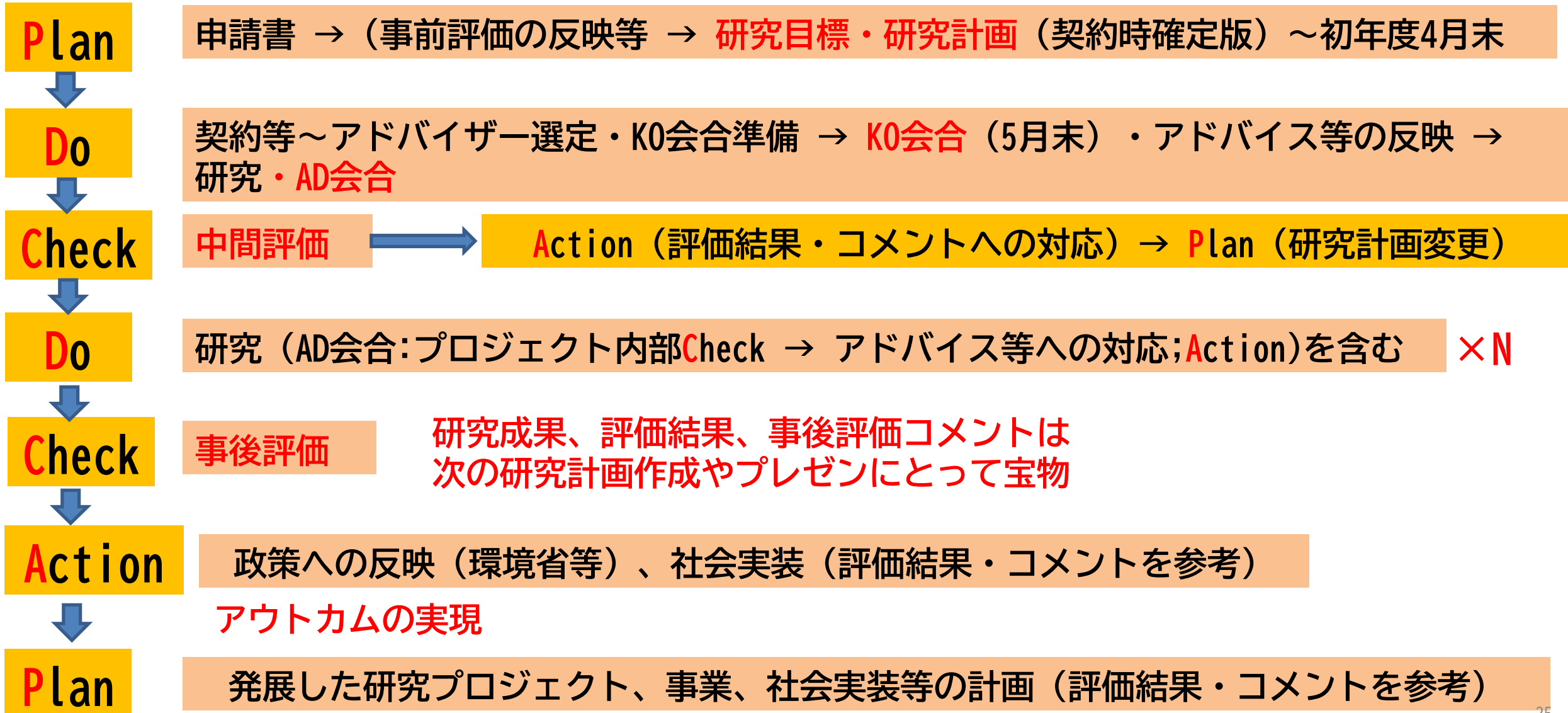
研究推進ハンドブック（事務処理説明書_研究推進編）（令和8年度）より

POは研究推進のためのサポーターです。遠慮なくご相談ください

行政推薦／環境省のアドバイス



推進費における具体的なPlanDoCheckActionサイクル



毎年度の研究管理

アドバイザーボード（AD）会合（年1回以上開催）

- ・進捗状況の報告

研究計画に対する遅延の有無。遅延があればその原因と対処方法等

- ・今後の研究の進め方の検討

- ・研究者典型のための議論

- ・アドバイザー・環境省担当課室・POとの質疑応答

アドバイザーの総合コメント

環境省の総合コメント

POの総合コメント

- ・ERCA事務局からの連絡

議事録（実質議事概要）を開催後2週間以内に提出していただくよう依頼

若手枠課題は若手研究者への支援強化として「自己点検シート」があります。

中間・事後評価のポイント

研究目標を達成するのが契約です。

中間評価：研究目標が達成できそうか？

事後評価：研究目標を達成したか？



研究目標を自己都合で変更することはできません。
申請時によくお考え下さい。

○○を検討する、○○を目指す、○○を解析する などはありません。
○○を検討して最適な手法を提示する、○○を解析して○○を明らかにする、
など、達成できたかどうか評価できる研究目標をたててください。

令和 6 年度から若手枠の評価は中間評価も事後評価も書類審査のみ

次のステップ

